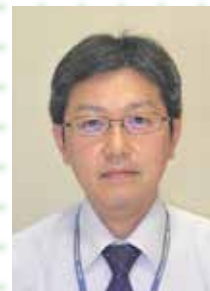


株式会社 昭和堂

●代表者／代表取締役社長 永江 正澄 ●創業／1951年4月
●所在地／長崎県諫早市長野町1007-2 ●URL／www.showado.co.jp

業務の一元管理化を達成

既存の印刷業から脱却へ



中尾執行役

(株)昭和堂は、「お客様あつての昭和堂」の気持ちを大切に、顧客とエンドユーザーの間を立ち位置と定め、「一流の印刷部門を持つ情報処理会社、お客様のコミュニケーションをサポートする会社」を目指している。創業は昭和26年、今年で64年の歴史を持つ。現在は、本社・工場に加え、二つの支店、二つの営業所を長崎県、佐賀県、福岡県に展開し、社員数は150人を超える企業だ。そして同社は、さらなる業務の効率化を目指し、富士フイルムグローバルグラフィックシステムズの「XMF Complete」「XMF Remote」を導入し、全ジョブ運用による業務の一元管理化を達成している。

「XMF」ワークフローシステムを導入したのが約2年前、顧客との校正のやりとりやジョブの一元管理ができると判断した。以前提案したWebポータルシステムでは顧客になかなか受け入れてもらえなかったが、「XMF Remote」を使った提案に切替えるとすんなりと受け入れてもらえたという。「お客様にとって、校正作業は余計な作業であり、いかに手間をかけずに行えるかということがポイントになる。XMF Remoteの直感的な操作性を評価頂き、これなら仕事の合間に効率よく指示が行えると理解してもらえた。しかも一社でなく、いろいろな取引先から同様の声が上がってきた」と話すのは、同社執行役プリプレス技術部長の中尾憲治氏。



全ジョブ運用に寄る一元化を達成

校正の受け渡しの手間が減った

リモート校正だけでなく、顧客からのデータ入稿にも使えるので、使いやすいWebポータルは顧客にとって、なくてはならないものになってきている。同社としても、顧客の囲い込みができ、かつお互いの時間の短縮につながる。また営業は、校正の受け渡しの手間が少なくなることで、本来の業務である新規受注獲得に向けた活動に時間を費やせるようになったのである。ここ2年間で45社以上の顧客に「XMF Remote」を使ってもらえるようになった。ただ、これだけの顧客に「XMF Remote」での校正を受け入れてもらえるようになったのは、同社の「トッラン」という企画からデザインまでを手がけるプロフェッショナル集団の存在が大きい。各支店に社内のシステムの仕組みなどを熟知した「トッラン」の部員を配置しており、営業とタグを組んで提案できることが大きな要因だとも同社は見ている。

営業からの注文にも即時に対応

「XMF Complete」「XMF Remote」の導入・活用で社員にも大きな変化が現れたという。中尾執行役は「本社を離れて活動している営業ほどXMF Remoteのメリットを良く理解しているようだ。当社は離島にも営業所があるが、本社との距離があればあるほど営業はXMF Remoteをうまく提案している」と話す。また、制作部門では、全ジョブ運用により、ジョブの見える化を図ることで、だれもが仕事の状況や内容を見ることができ、営業からの問い合わせや注文に対して即

時に対応できるようになった。従来のように校正紙などの「物」がなければ的確な対応ができないという状況はなくなったという。そのため、どのような問い合わせでもどこにいても、すぐさま確認し、対応できるので業務効率が非常に上がったと同社では認識している。

また、XMF Completeのテンプレート機能を活用しているため、印刷物の仕様と印刷機が決まれば、それに合致したテンプレートを選択するだけで、その印刷機に合わせた面付けパターンが自動で選択される。そのため下版時間が短縮され、かつCTP作業の負荷も減ったという。3名いたCTP出力要員も、今では2名になったという。

さらに、テンプレートを活用する運用は、オンデマンド印刷との連携にも非常に有効的で、オフセット印刷、オンデマンド印刷に関わらず、ほとんどの仕事はXMFを経由しており、非常にフレキシブルな運用ができていているという。

このように顧客とのコミュニケーションを大切にしている同社の次の取り組みは、製造工程の「更なる自動化」と「従来の印刷業から脱却していくこと」だという。

今でも「お客様だけでなく、その先のエンドユーザーの行動まで考えて提案している」というが、製造工程を更に自動化することで、よりお客様への提案に専念できると考えている。また、「印刷屋という意識を早く変えていかなければならない。そのために当社では部署の名称も変えて、社員自ら意識を変えていくことに取り組んでいる。そういう取り組みの一つひとつが、お客様の希望するサービスの提案に繋がっている」と中尾執行役は最後にそう語った。